

阿蘇広域行政事務組合公告第4号

令和3年4月20日

令和3年3月組合議会定例会の一般質問について次のとおり公表します。

順番	議員氏名	質問事項	要旨
1	穴見まち子 (小国町)	1. レジ袋有料化が義務化され各市町村から出されるごみの変化、またコロナ禍の中、出されるごみの課題について	<p>前年度、レジ袋有料化が義務化された。それにより、各市町村から出されるごみ量の変化があるのか。</p> <p>コロナ禍の中にありながら、リモート、巣ごもりで私たちが出すごみ量も多くなっていると思うが、課題もあるのではないか。</p> <p>小国町では、残菜をリサイクルし、堆肥にしています。その堆肥を利用して野菜を作り、売り野菜として出していますが、学校、施設、スーパーなどから出される残菜をリサイクルすることはできないか。</p>

1. レジ袋有料化が義務化され各市町村から出されるごみの変化、またコロナ禍の中、出されるごみの課題について

○議員

おはようございます。小国町議会議員、穴見です。よろしくお願い致します。

私は、この未来館ですね、20年程前に地域の婦人会の方を連れてRDF施設ができた時にですね、最初の方にここの研修に来ました。ちょうど思い出したら20年前ですので、今、年齢的に一番頑張り時かなと思っております。その時にですね、ここの今、事務局長であられる井野さんにですね、この施設の説明をいただきました。このRDFというのは何かなと思いながらですね、その最終的に作られた3cm程のチップですね、その説明はいただいてですね、やっぱり「すごい施設ができたな」と思って感心しておりました。

その時にですね、まだその頃は、ちょっと余談ですけど、そこの白雲山荘がありましたよね。その施設があって、そこにはアイススケート場とお芝居をする所がありましたので、婦人会の会員の方と一緒にお芝居を見て帰った経緯がありました。今思うとやっぱり時代は流れて、20年という月日が流れてですね、このRDF施設を造ったところで私は、今、この広域の議員ですけれど、この今2期目で6年ですかね、研修にですね、最初は上の方の研修、それから次に津久見の方の研修ですね。そして四国、徳島と山口の方の研修に行って、その施設の燃やしたり燃料としたりですね、色々な方向にやっってるのをみると、やっぱり時代は変わっていくのかなと思っております。

しかし今ですね、世界的に環境問題が言われている中で、小国町も子ども議会もあつたんですけど、その中でもごみの問題が言われるようになってですね、環境問題というのは、やっぱり今、メディアの中で、テレビの中でもしきりに言われております。温暖化の現象もあるし、ごみはどこに行くのかなといつもですね、そう思っていて、私たち主婦はごみはずっと出しております。その中でですね、去年にレジ袋の有料化がありました。年々と減るのか、それによってですね、各市町村から出されるごみ、去年と今年とですね、今、皆さんが言われているようにコロナ禍ではありますけども、ごみの動きがどう変わったかなと思っておりますけど、この未来館でですね。

それを、説明いただきたいと思います。よろしくお願い致します。

●執行部（管理者）

穴見議員から、一般廃棄物の処理に関する質問でありますけれども、組合の方では廃棄物処理法に基づいて、家庭または事業所から排出する一般廃棄物の処理を行っています。

また、構成する市町村と一体となって一般廃棄物の収集運搬及び処分について、基本計画を策定しながら、それに基づき毎年度処理計画を作成をして実施することで、地域住民の皆さんの生活環境保全に努めているところであります。

現在では、ごみに関しては西原村を除く6市町村のごみは、最終的にはこの未来館の方に集まって、穴見議員がおっしゃられましたように、可燃ごみは固形燃料RDF、また資源ごみとか不燃ごみについては、それぞれ分別をしてリサイクルをしているところでもあります。今回のコロナ禍や、そしてレジ袋の有料化によるごみ量の変動等につきましては、詳細について環境衛生課長の友永より説明をさせたいと思いますので、どうかよろしくお願い致します。

●執行部（環境衛生課長）

お世話になります。

まず、1点目のレジ袋有料化に伴い各市町村のごみ量の変化についてのご質問でございますが、2020年の7月から容器包装リサイクル法の改正に伴い、プラスチック製買い物袋の過剰な使用を抑制する事を目的に施行されております。

現在、日本国内において1年間で使用されているレジ袋の使用枚数でございますが、約305億枚と推測されております。レジ袋の重量換算としまして環境省の調査によれば、1枚当たりが6.8gから10gと言われており、これを1人当たりの使用枚数に換算しますと年間で約300枚になり、重量としましては1枚を10gに算出した場合約3kgとなります。未来館におけるレジ袋量を、令和元年度の処理実績価値から算出してみますと約160t程度搬入されていると思われま。

令和2年度、本年1月までのごみ量を前年度と比較してみますと、RDFごみ量が約960tの減少で、約マイナス7%となっております。これにつきましては、コロナ禍の中、非常事態宣言等の実施があり飲食店や宿泊施設の営業自粛があり、事業系ごみ量が約950t、家庭ごみはコロナ禍の中、家庭で過ごす時間も増え、片付けごみ等の粗大・不燃ごみが増加傾向でございましたが、可燃ごみに関しましては約10t減少しています。

またRDFの組成の状況においても、レジ袋はビニール、合成樹脂、ゴム、皮革類で一括して分析されておりますが、約マイナス7%減となっております。必ずしもレジ袋と判断はできませんが、レジ袋有料化に伴いごみ量の減少が若干なりともあると思われま。

以上でございます。

○議員

ありがとうございました。

前年度は、コロナ禍になり、やっぱり飲食業、旅館とかホテルとかですね、色んな所も休業中であり、その辺だっというのもかなりあったと思われま

す。そこでですね、私たちが住んでる小国町では7年前からですね薬味野菜の里っていう、小国町のゆうステーションの側にあるんですけども、そこが立ち上げて、小国町ではですね、学校とか公立病院とか小国町老人保健施設悠和の里、保育園、木魂館とかマルミヤストア、小国町の大体その中で収集は業者の方に委託してですね、それを集めて、その残菜を廃棄化した堆肥をですね各農家とか色んな所から買いに来られた方が、肥料として使っています。その肥料の作り方はですね、本当、作る最終的な段階では菊池の方でその種菌を使ったり、ゆりかえし、いわゆる昔は堆肥のところは、自分ちのいる牛とかですね、その堆肥をきりかえしてしっかりして、野菜を作っていたという、私も農家でしたので記憶があります。そんなような感じですね熱処理をしっかりしてですね、しっかりした堆肥を作るという事ですけれども、この広域ではですね、その残菜を使った野菜作りとしてですね、作る事はできないだろうかという事を質問したいと思っておりますが、どうでしょうか。

●執行部（環境衛生課長）

次に、「コロナ禍の中にありながら、リモート、巣籠で私たちが出すごみ量も多くなっていると思うが、課題もあるのではないかと。小国町では残菜をリサイクルし堆肥にしています。その堆肥を利用して野菜を作り、売り野菜として出していますが、学校、施設、スーパー等から出される残菜をリサイクルすることはできないか」とのご質問でございます。

現在、日本では食べられるのに捨てられている食品、食品ロスでございますが、問題となっております。環境省、水産省の公表では、事業系、飲食店や旅館等廃棄物が年間328万t。家庭系廃棄物が284万t。合わせて612万tが1年間で捨てられている状況だそうです。

阿蘇地域では、この食品ロスも含め各市町村において一般家庭から排出される残菜や厨芥類などのごみの減量化、または堆肥化を目的に、コンポスターや生ごみ処理機購入への助成等の取り組みを行っております。各市町村の取り組みにあっても、排出される残菜や厨芥類はこの未来館で処理されております。

皆様ご存知のとおり、未来館におきましては残菜や厨芥類を含む可燃ごみを、固形燃料RDF化として工業用燃料としまして再利用、リサイクルしております。その他のごみ、ビン・缶・古紙・衣類・ペットボトルや不燃ごみ、金属類も再利用できるよう取り組みを行っているところでございます。

令和元年度実績といたしまして、可燃ごみ1万5,438tから約8,200tのRDFを製造して売却しております。資源ごみにつきましては、1,828tの受け入れから1,655tの資源化しております、不燃ごみにつきましても701tの受け入れから約320tを資源化しております。組合におきましては、受け入れごみ量とRDF製造を含んだ形で約56%をリサイクルしております。平成30年度実績におけるリサイクル率、全国平均で

ざいますが19.9%。熊本県の22.7%でございますので、約2.5倍のリサイクルを行っております。

廃棄物の処理については、組合、各市町村一体となりごみを削減しリサイクルに取り組めるように啓発活動等を行っておりますが、今後も尚一層の取り組みを行って参ります。

最後に、組合としましては現在のごみ処理方式及びリサイクル率等を勘案してみますと、未来館での新たな処理方式等につきましては、現段階では検討はしておりませんが、RDF施設の老朽化や処理方式等に限りが生じてくれば、将来的に次のごみ処理方式の処理方法の検討が必要であり、それに伴う処理施設及び最終処分場の建設を踏まえ検討する事となりますので、今後、市町村との協議を重ねて参りたいと思います。

以上でございます。

○議員

なかなかですね、この未来館での取り組んでいるディベートを聞くことがないので、良かったかなとは思っております。

なかなか、その残菜といえども捨てれば、他のも一緒にすけども、区別すれば資源としてリサイクルできる、元の形に戻せるということですね、皆さんがやっぱり自然から取り組んでいく。そしてまた、子どもの頃からですね、その活動というのを子どもたちが見えるようにしていくと、自然と世の中が次の未来に向かってですね、私達の責任というのはそこにあるんじゃないかと思っております。

今後ともよろしくお願ひしたいと思います。ありがとうございました。